

環境レポート 2004

環境効率性の評価

当社は、事業活動によって排出される環境負荷と、事業活動によって産み出される経済価値の関係を表す環境効率性についての試算を行っています。

今年度からは、経済産業省のLCA国家プロジェクトで開発された日本版被害算定型影響評価手法「LIME※1」を用いて環境負荷の統合化を行いました。

統合した環境負荷は、当社事業の性質上、環境への影響の大きいCO₂排出量、SO_x排出量、NO_x排出量、産業廃棄物最終処分量および原油などの資源消費量を対象とし、経済価値につ

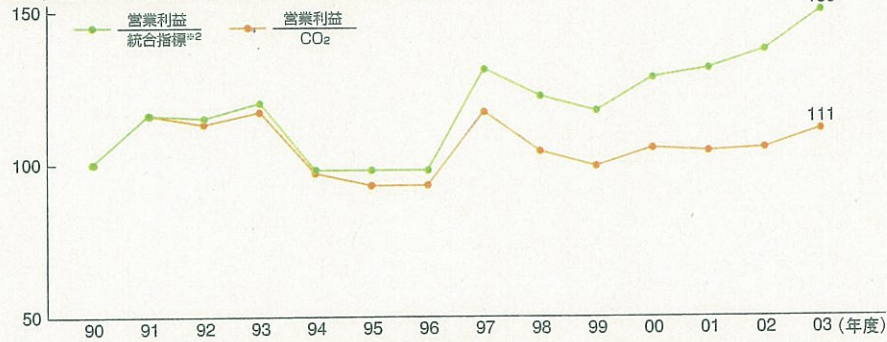
いては、財務会計上の営業利益を用いています。

2003年度の環境効率性を1990年度と比較すると、50ポイント向上しています。これは、原子力の効果などにより、CO₂ほか各種環境負荷が大幅に減少したことによります。

今後も環境負荷低減と経済価値増大の両立をめざした事業活動を推進するため、環境効率性を把握、評価していきたいと考えています。

※1 CO₂などの環境負荷物質が、温暖化やオゾン層破壊などの環境問題に与える影響を科学的に分析し、さらに人間健康や生態系といった保護対象ごとに被害量を算定し、重み付けを行い統合する手法。

■ 環境効率性の推移 (1990年度を100とした場合の指数)



※2 統合指標 = $\frac{\text{排出環境負荷量}}{\text{CO}_2, \text{SO}_x, \text{NO}_x, \text{産業廃棄物最終処分量}} + \frac{\text{消費資源}}{\text{石油、石炭、LNG、原子力発電用燃料}}$ [個々にLIMEの統合化係数を] 乗じています